



244号

2020年

5月14日

発行所 岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1

電話 086-252-1111 (代)

7168 (内線)

直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/>メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

目次： 1~2：新型コロナウイルスへの対応について 2：寄せられた組合員の声（まとめ） 3：在宅勤務・オンライン授業を実施してみて 4：オンライン授業，Moodleについて 5：全大教情報 6：旅日記

新型コロナウイルスへの対応について

新型コロナウイルスの影響で、本学ではすでに3月26日に5月14日までの授業をオンライン授業とすることが決定されていました。さらに4月28日には1学期の授業がすべてオンライン講義のみを実施することとするとの通知が岡山大学のホームページで告知されました。折しも、5月4日政府による緊急事態宣言も約1か月の延長の方針が発表されました。先の見えない状況で講義を行い、大変な苦勞をされている教職員の皆さんも多いことでしょう。また、学生生活がいつから平常に戻るか分からない中で、不安を感じている学生も多いようです。岡山大学職員組合へも、組合員から多くの問題点が寄せられております。具体的な内容は次のページに記載しますが、寄せられている意見は、大きく分けると次の4つになるようです。



1. 講義の実施に関する問題

これまで前例がない Web 講義の実施に当たり、Moodle の不具合や通信環境の脆弱さなどが指摘されています。実習を含む講義はどうするのかについては担当教員に任されており、不安が聞こえてきます。オンライン授業の準備に通常より多くの時間が必要となり、長時間労働が行われているのではないかとの懸念もあります。また、学生に授業の実施についてどのようにアナウンスがなされているかが教員に伝わってこないという指摘もありました。



も関わらず書類の提出にこだわっている（在宅勤務届すら、最初は持参するようという指示が出た部局もあるようです）、建前論ばかりで実現可能とは言い難い（教員の多くが、結局 Web 授業の準備と称して連日出てきている）など、疑問を感じることが多々あります。居室が与えられた教員が一人で執務をするのと、事務室で複数名の職員が事務作業を行うのと、どちらのリスクが高いのか、考えればすぐに分かることですが、教員には Web 講義以外の出勤をしないようにと命令し、事務方が出勤している（事務作業の電子化が進んでいないので出勤せざるを得ない）状況は、非科学的な見せかけだけの対策だと言っても過言ではないでしょう。

2. 学生の研究活動に関する問題

卒業研究や大学院生の研究活動についての問題を深刻になりつつあります。大学は4月17日に5月6日までの間新型コロナウイルス関係以外の研究は行わないようにとの通知を出しました。この期間はゴールデンウィークもあり、研究活動をその間ストップしてもそれほど影響はなかったかもしれませんが、しかしそれをゴールデンウィーク明けも継続するとなると、今年度中に卒論や修論を書かねばならない学生にとっては大きな影響が出てくると考えられます。

3. 在宅勤務や事務的な問題

事態が急転しているため、大学からの指示が朝令暮改になるのはある程度やむを得ませんが、意思決定のプロセスがよく分らない、この非常時に

4. 学生の不安に関する意見

学生は通常の講義を受けられないだけでなく、卒業に関係する実習や研究なども実施されないなど、学業の遅れや卒業・修了に対して不安を感じています。さらに、アルバイトをしていた学生の中には、社会活動の自粛により収入が途絶えた学生も少なくないようで、事態が長引けば最悪の場合、授業料や生活費に困窮し、学びたくても学べない状況になることが強く懸念されます。大学には、学生が安心して学び続けられるような対策を早急の実施することを希望します。

岡山大学職員組合では、3月初旬に発行された

組合だより 241号から、継続的にコロナウイルスに対する組合の活動を掲載しています。現在生じている問題を明らかにするとともに、組合員の皆さんが、どのようにこの危機に対応しているかといった体験談なども積極的に掲載することを考えていますので、ご意見をお寄せください。

寄せられた組合員の声(まとめ)

1. 講義の実施に関する問題

- ・(Moodleの不具合について) もともとオンライン授業など考えていなかったはずです。システムの実力を知らない者がオンライン授業をやれと指令を出して丸投げし、丸投げされた方があたふたしているというのが実態。
- ・動画や双方向機能を用いたオンライン授業はデータ容量が大きく、大学もルーターの貸し出し等の対策を取りつつあるものの、学生の通信環境が十分であるか不安がある。
→PDF やパワーポイントの資料等もアップしておき、生で見られなかった学生や通信のデータ容量が十分でない学生への配慮も必要。
- ・学生にどのような周知をしているか、教員に伝わってこない、あるいは学生に通知した後で伝わってくるのは困る。

2. 学生の研究活動に関する問題

- ・卒業・修了する学生の研究指導はどうすればいいのか、今の状況では卒業・修了に十分な研究ができるか不安。
→研究室への配属が決まったばかりの学部4年生と、修士の学生のコミュニケーションが取れていない研究室もある。



3. 在宅勤務や事務的な問題

- ・在宅勤務の申請書を事務へ持参するようにせよと指示した部局もある。何のためのテレワークなのか。メールでまず承認を得て、事態の収束後に書類を出すなど、柔軟な対応をこの非常時に取れないのか？
- ・TA 変更に関して、先日(4月18日)に電子メールで頂いた資料には押印の指示がありますが、在宅者には無理で場当たりの対応をしているとしか思えない。
→最近では教員・学生が来学できない場合は押印を省略してよいとの通達あり。しかし、この非常時にも関わらず、当初は従来の紙の書類を死守しようとしたことに対して、本気で人の接触を減らす気があるのかと強い憤りを感じる。
- ・常勤・非常勤関わらず「在宅」はどこまで許さ

れているのか、遠距離通勤の教職員を除くとどこまで許されているのか不明。

- ・事務補佐員や技術職員の在宅勤務まで部局が気を回しているか不安。また、誰が在宅勤務の可否を判断するのか。
- ・この時期に限ったことではないが、ローカルルールで周囲を振り回す事務方がいて困る。
- ・学生は完全に来させない、事務系も減らしたいのが分かるが、教員・技術職員・事務補佐員はどうすべきか、部局から明確な指示がない。
→学生よりだいぶ遅れて部局から指示あり、学生への対応を決めた際に、教職員についても迅速に決定、周知すべき。
- ・執務室を与えられている教員が、執務室で一人で仕事して、どのような感染リスクがあるのか？事務室で複数の事務方が作業をしている方がはるかに危ないと思える。
→例えば、具体的に「部屋がある教員は出勤しても良いが、他の教員と密室で話をしないように」といった科学的な知見に基づいた指示をするべきでは？人数を8割削減するのではなくて、接触機会を減らすように合理的な判断をするべき。
- ・マスクをしていない(買えないのでしていない)と、鬼の首を取ったように「マスクした方がいいぞ!」と言って来る人がいて困っている。学生も事情があって入手できない者も出てくるだろうし、マスクをして部屋を閉め切って他の人と話をしているのと、一人で部屋にいて、窓もドアも開け放って執務をするのと、どちらが危険なのだろうか？戦時中の「非国民」狩りを連想させる。理性的な対応をしてほしい。
- ・メディア授業の準備ということで毎日出勤している。在宅勤務などできる環境ではない。

4. 学生の不安に関する意見

- ・学生が経済的な不安で退学せざるを得ないということは、何としても避けなければいけない。大学からの早急な対策が必要。
- ・学生から登校停止・講義はすべてオンラインになるなら学費を安くして欲しいとの声がある。
- ・研究室の学生にも、精神的に不安定な学生も現れつつあり。学生のメンタルケアや日々の生活の乱れを心配している。研究室の学生ですらそういう状態なので、他学年は、特に学部1年生の状況を懸念している。
- ・生協が休業に入ったが、生協で「食」を繋いでいる学生も多くいるようなので困っているのではないかと思う。
→一人暮らしの教職員も困っている。

在宅勤務・オンライン授業を実施してみて

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、岡山大学で在宅勤務制度が始まり、約1ヶ月が過ぎようとしています。通常勤務、在宅勤務をされているみなさま、お疲れ様です。通常勤務を行われている教職員のみなさまの多くは、自身の健康は二の次で、日々戦々恐々としながら、限られたリソースで、無理・無茶・無謀な要望や要求に応える形での業務遂行に励まれているのだと思われま。そこで、岡山在住ではない教職員が行っている講義の情報を少しでも共有し、みなさまのお役に立てればと思い、拙い内容と文章で恐縮ですがこの場でご提示できれば幸いです。

まず、講義情報提供には、**Moodle** を使用しています（それ以外の選択肢が無いということだけですが...）。学生の自主性や能力を信じ、「教科書」や「関連 Web」だけの学習でも良いのですが、できない学生の多くは、このような学習にアレルギー反応を強く示し、フェードアウトしていきます。そこで、学生を上手く誘導する必要があります。某講義では、通常の資料に加え、呼び水的に **Youtube** や企業動画（NHK の BS で一度放送され、それを企業が提供しているもの）の情報を提示・視聴の指示を行っています。（在宅教員には、**Moodle** アクセスができないことも想定した状態で）**Youtube** や企業動画などは、限られた（短）時間で素人にも分かりやすい内容（装置）を提示している点と、動画視聴時におけるサーバー負荷低減に関する点が優れていると判断しています。幸いにして現在まで、上記動画に対しては、学生の反応もそれほど悪くなく（悪い人もいますが...）、分かりやすかったという意見も聞くこともできています。ただし、上記動画資料は視聴しやすい反面、宣伝的で、内容が希薄で、細かな点を伝えきれていないなど、欠点も当然あります。幸いにして私担当の某講義は、課題提出が基本である特殊な講義であり、教科書や資料を一読すれば理解できるため、学生も大きな不満を示していません。これも、講義を支えてくれている TA 学生のお陰です。TA 学生に



よる **Moodle** 掲載の資料事前確認はもちろん、臨時資料や課題の追加などでは、さまざまな意見をもらっています。可能ならばオンラインホワイトボードなどの使用で学生に再度考える機会を設ける等工夫も考えたいのですが、在宅では限界もあり、実現には至っておりません。

在宅は、有事対応の遅れを余儀なくされます（何を行っても後手となります）。また、講義を行う場所は講義室だけではないことが分かりました。さらに先日も岡山地方の停電のようなネットワーク接続ができない場合、何もできずお手上げとなることも分かりました。ネットワーク不調に関する連絡は、（今までの所）講義開始前にはなく一定時間が過ぎた後であり、事務からの電話連絡すらない状況です。このような状況下で、講義開始時間を迎えた時に感じた不安や焦りは、言葉では表せません。では、オンラインで学生に魅力的な講義をするにはどうすべきか？本来ならばこの答えを紙面でご提示できれば良いのですがそれに答えることが現時点でできていないと思います。学生に本気をださせるためには、まずは教員が本気でなければなりません。学生は教員が本気かどうか？は、オン・オフラインどちらであっても岡大学生には直ぐに分かると思います。それならば、泥臭いですが在宅からでも少しでも資料1つ1つに本気であることを示すことを心掛ける。今、私ができることはこれしかありません。**Moodle** はオンライン授業用のツールではなく、オンライン指示の為に担ぎ出された補助資料掲載ツールであるため、本気を出す場所が不十分であると思います。不平不満があるツールではありますが、1つずつできることを行いたいと思います。



最後に、今回組合からこのような機会を頂きましたこと、大変感謝しております。在宅で（あってもなくても）頼れるのは、電磁的方法によるネットワークではなく、人のネットワークです。このような大変な時期に活動も大変とお察ししますが、皆様（そしてご家族）も健康にお気を付けながら共に頑張っていきましょう。

（著者の希望により匿名）

あなたも組合の仲間になりませんか？



お申し込みは、各単組役員、もしくは組合事務所まで。メールからも、お申し込みできます。
岡山大学職員組合 ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

オンライン授業, Moodle について

五十嵐潤美 (基幹教育センター)

オンライン授業が始まってから、教員と学生が、また学生同士が直接語り合える対面授業の価値を思い知らされることが多い。しかし、そう言っても仕方がないので、今ある仕組みを使って、できるだけのことをするしかない。大学が用意した Moodle に関しては、使いづらいという声も聞けれど、学生の意見を聞いたり、学生同士のコミュニケーションを促したりする仕組みも用意されている。多くの方が既に様々な使い方を工夫されていることと思うが、私の取り組みの一部をここでご紹介する。



まず「ワークショップ」機能である。これは学生が提出した課題を、学生同士で交換して意見を述べ合ってもらおうというものである。私は英語ライティングによく使っている。まず、学生に提出期限までにライティングを提出してもらおう。提出締め切りが過ぎると、今度は指定した数のクラスメイトのライティングを各学生に割り当てる。これは予め日時と一人当たりの割り当て数を設定しておけば、自動でランダムに割り当てられる。そして学生は割り当てられたライティングを読んで、コメントをしたり、改善点を提案したりするのである。こちらで採点基準を設定して採点させることもできる。教員はもちろん誰のライティングにもコメントできる

し、学生が書いたコメントも読むことができる。最初は、同級生の書いたものに意見を述べるのは抵抗があるかと心配したが、意外と抵抗はなく、長い丁寧なコメントを返す学生も多い。クラスメイトからコメントをもらえるのは嬉しいらしく、オンライン授業になる前から使っているが、いつも好評である。特に対面授業がない今では、貴重な交流の機会になっている。

Moodle ではその他にも、リアルタイムのコミュニケーションができるチャットルームや投稿型のディスカッションができるフォーラムも用意されている (これは Teams の同様機能の方が使いやすいかもしれないが)。チャットルームは開室時間が長すぎると学生同士が出会いにくくなるが、短すぎると一度にたくさん集まりすぎて、話がスムーズに流れにくい。まだ試行錯誤中である。フォーラムは学生もじっくり意見を練ってから投稿できるので、議論が深まりディスカッションに向いている。いずれも最初に教員側から明確な問題提起が必要である。方向さえ決まれば、おそらく学生はこういうコミュニケーションには SNS で慣れている。

Moodle はリアルタイムのライブ授業には向かないが、ここにご紹介した機能は、学生に自分の意見をしっかり書かせたり、他人の意見を読ませたりするのに便利な仕組みが備わっている。Teams や Zoom を使ったライブ授業とうまく組み合わせることで、学びの形を広げることができるだろう。

全国の国立大学の組合の動き ～ 全大教・単組交流広場より

新型コロナウイルス感染症の影響で全国の大学でもさまざまな動きが出ています。全大教のウェブページには「単組交流広場」というものがあり、そこに全大教に加盟している組合から投稿があります。ここでは 2020 年 4 月に各単組や全大教から単組交流広場に投稿された様々な情報の中からいくつかを紹介いたします。

全大教チェックリストを公表

全大教中央執行委員会は 2020 年 4 月に「大学等における新型コロナウイルス対策チェックリスト」を公表しました。

https://zendaijyo.or.jp/?action=common_download_main&upload_id=22249(エクセル版もあります。)

大学等の新型コロナウイルス対策について大学等が検討・実施すべきと思われることを列挙したものです。教職員の就業について 14 項目、学生の修学・学習機会の保障、教育・研究買う銅の停滞の防止について 9 項目、その他 1 項目の全部で 24 項目あります。

主な内容としては、オンライン授業における環境のこと、感染した場合や感染のおそれがある時の特別休暇の有無、経済的な学生への支援などです。興味のある方は是非ご覧になってください。(組合員限定ページですのでご覧になれない方は組合事務局にご連絡ください。)

高知大学, 4月30日に要望書提出

高知大学教職員組合では2020年4月30日に要望書を提出しています。内容は多岐にわたっており全部で17項目あります。

全大教のチェックリストに沿った内容もありますが、他にも図書館における非対面での貸し出しを可能とすることや大学として一定のマスクを確保し必要者に無償あるいは適正価格で提供すること、電磁波過敏をはじめとする健康上の理由でオンライン授業の授業が難しい学生への対応などを求めています。

山口大学, 4月10日と15日に要求書を提出

山口大学教職員組合では4月10日の早い時期に11項目の要求書を大学に出しています。要求内容については山口大学の組合ニュースをWebで見ることができますのでそちらを参照ください。早い時期に出された要求書なので、現在ではほとんどの大学が実施している基本的な対策を要求したものになっています。その要求書に対して4月15日には山口大学から「申し入れについて真摯に受け止め、その他の要望についても可能な限り対応する」との回答を得ています。

さらに山口大学教職員組合は、医学部・附属病院でマスクが不足し支給が1週間に1回となるなど深刻な資材不足が始まっていることを憂慮して、4月15日に学長・医学部長・附属病院長宛に提案書を提出しています。

弘前大学, 私生活の内容に対する自粛は協力要請であることの確認を求める

弘前大学は4月15日に「感染拡大防止のための国内移動、会食等の制限に関する留意事項」を職員に対して発しました。その中に私事による特定地域への移動の自粛、不要不急の外出の自粛、自宅外での飲酒の禁止、自宅外での会食の自粛、学生のアルバイトの自粛などが含まれていました。

弘前大学職員組合ではこれらの私生活の内容に対する事項は職員に対する指針ないし協力要請に過ぎないことの確認を求めた申入書を提出しています。

京都大学, 医療従事者へのコロナ対応特別手当支給, 在宅勤務における超過勤務手当支給を要求

京都大学職員組合では4月23日、「新型コロナウイルス(COVID-19)感染患者の受け入れにあたり医療従事者へ賃金の加算支給を求めます」として、最前線で感染者治療にあたる医療従事者、および医療従事者以外の病院勤務者にコロナ対応特別手当を支給することを要求しています。具体的には、大阪市で市立病院における医療従事者に日額4,000円の手当を支給するという方針を表明している事実に鑑みて、医療従事者への手当は最低でも日額5,000円、医療従事者以外の病院勤務者への手当は最低でも日額1,000円を要求しています。

また、4月24日には「在宅勤務にあたり必要に応じて超過勤務手当を支給することを求めます」として在宅勤務でも超過勤務を行なった場合には超過勤務手当を支払うよう求めています。

京都大学では、現場における在宅勤務の運用において、労働基準法および就業規則に適合していないと思われる事例が当組合に報告されているそうです。岡山大学においても普段裁量労働制ではない方々が裁量労働制で在宅勤務されていると聞いています。労働基準法および就業規則に適合していないような事例がないかチェックする必要性を感じています。

徳島大学, 有志が学生の経済的困窮度に関するアンケート

徳島大学では有志が175名の学生に経済的困窮度に関するアンケートを取ったそうです。その結果約3%の学生が「かなり悪化しています。通常の学費免除等に加えての支援が必要です」と回答しました。これをもとにして組合から要求を出す準備をしているとのことでした。

他にも在宅勤務や特別休暇に関する情報交換が行われたり、学生の支援に関する情報交換もあります。中には食事を欠くほどに困窮している学生の存在が明らかになり、有志で学生への緊急食料支援を行うところもあるそうです。岡山大学職員組合も全国の状況を参考にしながら今必要とされている活動を行う所存です。



ローカル線で行く！フーテン旅行記

第71回 電車に乗って観音様へ！ 水間鉄道 工学部職員組合 大西孝

新型コロナウイルスの脅威に全世界が晒されています。気候が良くなってきたにも関わらず、国内外ともに旅行へ出られる雰囲気ではありません。そんな社会情勢ですが、旅行記は通常通り提供を続けます。先行きの見えない状況ですが、この旅行記で一息ついていただければと思います。

困ったときの神頼みではありませんが、古来、由緒ある神社仏閣には大勢の人がお参りしてきました。江戸時代の東海道中膝栗毛を見ると、かつては徒歩でのお伊勢参りが盛んだったことが分かりますが、鉄道が発達すると、神社仏閣への参拝を目的とした路線の建設が進められました。東京の京成電鉄は成田山新勝寺を目指し、近鉄大阪線の前身である参宮急行電鉄は社名のとおり伊勢神宮の参拝者を運び、岡山でも吉備線の前身である中国鉄道（現在の中鉄バス）は、戦前に備中高松から最上稲荷までの支線を運行していました。今回は、観音様へ参拝する人のために作られた大阪府のミニ私鉄をご紹介します。

水間（みずま）鉄道は大阪府の南部にある貝塚市を走る私鉄で、水間観音こと水間寺の参拝客の足として大正末期に建設され、今では20分おきに2両編成のワンマン電車が運行されています。始発の貝塚駅は、大阪と和歌山を結ぶ南海本線の駅に隣接しています。改札口には自動改札が無く、代わりにバスと同じ運賃箱が置いてあり、駅から出るときに切符や運賃を入れるシステムになっています。ホームには銀色に輝く2両編成の水間



貝塚駅で銀色の車体を夕日に輝かせる水間観音行き。運転手さんが乗り込み、間もなく発車です。



水間寺（水間観音）の三重塔と本堂。いずれも江戸時代後期に建立された歴史ある建物です。

観音行き電車が止まっていますが、元は東京の東急電鉄で走っていた電車で、1963年に作られた大ベテランの車両です。銀色の車体はステンレスでできているので、製造から60年近く経っても錆びることはなく、車内もきれいに改装されているので、あまり古さは感じません。貝塚駅を出ると、急なカーブをキーキーと車輪をきしませながら走り、貝塚市役所前駅に着きます。水間鉄道は、5.5kmの路線に10もの駅があるため、短いところでは駅の間隔が400mしかなく、路線バスのような感覚で使われているようです。住宅地を走るため車窓は平凡ですが、近義の里（こぎのさと）や清児（せちご）といった難読駅が、沿線の歴史を感じさせます。

貝塚駅から約15分で終点の水間観音駅へ着きました。1926年（大正15年）の開業時に建設された駅舎は寺院風の造りの堂々たるもので、有形登録文化財に指定されています。また、ホームの屋根には無数の苔（こけ）玉がぶら下げられていますが、これは2018年に「苔のように贅を求めず、美しさを失わず、しっかりと路線を守っていく」というコンセプトで駅をリニューアルした際に設置されたもので、地域に密着したユニークな取組といえます。ここから水間寺へは、徒歩で10分ほどかかります。水間寺のホームページによると、このお寺は奈良時代に行基によって開かれたとされ、1200年以上の歴史を誇ります。赤い橋を渡って境内に入ると江戸時代後期に建てられた三重塔と本堂が目飛び込んできます。歴史ある15もの伽藍が広い境内に広がり、のんびりとした時間が過ぎます。

ゴトゴトと電車に揺られ、都会の喧騒を忘れて観音様へお参りに行くのも良いものです。



水間観音駅のホームにぶら下がる、無数の苔玉。地域に密着して、これからも運行を続けようという心意気を感じます。



夕日に浮かび上がる水間観音駅の駅舎。大正末期に建てられた格調高いデザインが特徴です。